





## 審査結果報告書

平成27年 9月 1日

主査 氏名	片桐 真人	
副査 氏名	天羽 康之	
副査 氏名	佐々木 治一郎	
副査 氏名	早川 和重	

1. 申請者氏名 : 上遠野 健

2. 論文テーマ : Prognostic significance of MYH9 expression in resected non-small cell lung cancer  
(非小細胞肺癌手術症例における MYH9 発現の臨床病理学的特徴と予後に関する検討)

3. 論文審査結果 :

本論文は非小細胞肺癌における予後不良因子となるタンパク質の発現を検討した論文である。申請者は癌細胞の移動、浸潤、転移などに関与するタンパク質の1つである Myosin-9 (MYH9) がシスプラチン耐性細胞株において発現が増加することに着目し、非小細胞肺癌手術症例 266 例 (stage I-III) を対象として、申請者が同定した MYH9 の抗体である KU-Lu-6 抗体を用いて、免疫組織学的手法による MYH9 の発現と臨床病理学的因子との関連性と予後に関して検討した。MYH9 の発現と臨床病理学的因子との検討では、MYH9 の発現と腺癌、低分化、血管侵襲、リンパ管侵襲との間に相関がみられた。生存分析でも 5 年生存率において MYH9 陽性例では有意に予後不良であった。また、各種の臨床病理学的因子の影響を加えた多変量解析では MYH9 の発現が生存に関して独立した予後不良因子であることが示された。この結果は stage I-III 期の非小細胞肺癌手術症例において MYH9 の発現が予後不良因子であることを示唆した初めての報告である。MYH9 はシスプラチン耐性細胞株で著しい発現がみられることから、MYH9 がシスプラチンの治療効果予測因子となる可能性が考えられる。本研究のさらなる展開で術後補助化学療法の層別化にも役立つものと考えられた。

審査における質疑応答では、申請者は各審査委員からの様々な質問に対して、丁寧かつ適切に回答し、卓越した研究技術と能力を申請者が兼ね備えていると考えられた。

以上より、本論文の内容の高さと申請者の質疑応答に対する的確な回答などから、審査委員全員、本論文が博士論文に十分に値するものである判断した。